



第8回

WAKUWAKUやまのうち 監査役
 (八十二銀行 融資部 企業支援室 主任審査役)

中尾 大介さん

金融マンの枠を超えて 地域活性化に尽力

起業経験を培う格好の場 「WAKUWAKUやまのうち」

長野県北部にある山ノ内町は、志賀高原、北志賀高原、湯田中・渋温泉郷を抱える長野県内有数の観光地だ。その玄関口ともいえる湯田中温泉に、観光まちづくり会社である「WAKUWAKUやまのうち」がある。WAKUWAKUやまのうちは、八十二銀行がリードし、地元有志によって設立された。現在、湯田中温泉のメインストーリー「かえで通り」にあるいくつかの店舗を運営している。

中尾大介さんとは、そのうちの一つである「CHAMISE」（チャミセ）というカフェで会い、WAKUWAKUやまのうちの最初の運営店舗となったビアバー&レ

ストラン「HAKKO」（ハッコ）で昼ごはんを食べた。HAKKOは、明治時代からある古民家（旧精肉青果店）をリノベーションした店舗であり、信州の発酵食品と地元食材によるメニューを提供している。WAKUWAKUやまのうちは、直営する店舗の運営を、それぞれ若手人材に託している。地域で事業をやりたいという若者の意欲は貴重だが、実績や経験もないため、銀行などから資金調達も十分にはできないし、経営知識の不足から失敗する可能性もある。WAKUWAKUやまのうちは、起業の意欲を持つ若手を役員や社員として採用し、自立するまでの初期段階を社内事業としてやることで経験を積ませ、事業が軌道に乗ったら独立も選択できるといった伴走型の経営が行われている。

中尾さんは、肩書こそ監査役という立場



金融経営研究所
 所長

山口 省藏

だが、WAKUWAKUやまのうちの岡嘉紀社長とともに、若手人材による店舗経営が軌道に乗るまで経営支援をするなど、人材育成に積極的に取り組んでいる。また、地元住民や事業者との間で何か交渉事やトラブルがあれば、その調整をするのも中尾さんの仕事だ。

転機は人との出会い

中尾さんは、八十二銀行の融資部で、企業の経営改善支援や事業再生案件を担当していた。それ以前には長野県内の企業に向し、事業会社の経営課題に直接関与する機会もあった。八十二銀行が2013年に観光活性化プロジェクトを始動し、山ノ内町にまちづくり会社の設立を検討していたときに専任担当者となった。

中尾さんは、WAKUWAKUやまのうちとともに、WAKUWAKU地域不動産マネジメントの監査役も務める。山をこよなく愛し、美しい山に囲まれた長野こそ、中尾さんの仕事場だ。



普通の銀行員はやらない「ゼロからイチを作る仕事」だった。また、必ずしも地元が一体となつて協力してくれたわけではなく、八十二銀行の取組みに好意的な人も冷ややかな人もいた。地元の商業経営者10名程度による有志で「まちづくり委員会」を作り、検討を続けていたが、具体的なプランはなかなかできなかった。最大の問題は、湯田中で、実際に事業を担ってくれる起業家人材がないことだった。委員会の参加者は、皆本業を抱えており、新事業を担う

余裕のある者はいなかった。そのときに現われた若手人材が、その後にWAKUWAKUやまのうちの直営宿泊施設である「AIBIYA」(アイビヤ)を運営することになる西澤良樹氏である。西澤氏は、海外のホステルで3年ほど働き、12カ国21都市のホステルを泊まり歩いた経験があった。西澤氏は帰国後、実家のホテル業を手伝ってはいたものの、自分が考えるスタイルの宿を造って経営したいという夢を持ち続けていた。次男の夢を実現させ



明治時代からある建物をリノベーションしたレストラン「HAKKO」。

てやりたいと思った父親が西澤氏を連れ、八十二銀行山ノ内支店長のところへ相談に来たのが、ちょうど山ノ内支店でまちづくり委員会が開催されていた日だった。中尾さんは、そこで西澤氏が説明する宿のコンセプトを聞き、「求めている人材に出会った」と思った。中尾さんは、西澤氏から地域の若手人

材を紹介してもらい、一人ひとりに会いに行つた。まちづくり委員会に若手人材も加わり、具体的なアイデアが出るようになった。その後、八十二銀行が地域経済活性化支援機構と連携し、長野県内の金融機関も出資する観光活性化ファンドを組成した。また、そのファンドの資金を活用し、WAKUWAKU地域不動産マネジメントが、地域の遊休不動産を取得・賃借し、実際に事業を行う若手人材や事業者の意向を踏まえたリノベーションをしたうえで、WAKUWAKUやまのうちの運営会社にサブリースするというスキームが作られた。この結果、空き店舗が増えていたかえで通りに、新しい店舗が5カ所開店した。最近では、WAKUWAKUやまのうちの取組みを契機に、近隣に店舗や施設が増えるなど、活性化の連鎖が見られている。中尾さんが最初に出会った西澤氏は今春、自ら会社を立ち上げ、AIBIYAの事業と不動産を買い取って独立した。地域を元気にするうえで最も重要なのは、担い手となる人材だ。中尾さんは、「地域に事業を創っていくためにも、次の世代を担う若手人材が将来に夢を持てる選択肢を一つでも増やしていきたい」と話す。

◆ ※毎月1回掲載します。